

# 1年生学年だよ

メリハリ つながり チャレンジ

令和6(2024)年2月6日 第61号  
吹田市立第二中学校第一学年

## 校内福祉体験

金曜日に校内での車いすの体験と、視覚を制限して歩く体験を行いました。これまでもあまり経験したことが無いことということで、みんな本当に前向きに体験していましたね。

今回の活動では、例えば正門前の坂道や段差、あるいは道に置かれたすのこやホースなどいくつかの障害がありました。今回は体験することが大きな目的ですから、乗り越えられないような障害はありませんでした。**力を合わせてやり切ったときには達成感さえ覚えたかもしれません。**活動自体を楽しかったと思う人も少なくなかったと思います。そうやって、一人では難しくても**周りとの力を合わせて乗り越えられる障害ばかりなら、労力がかかったとしてもそれを乗り越えることへ前向きになれるのかもしれない。**

しかし、これまでみんなが学んできたように、多数派の目線でしか物事を考えられていないことによって、今回の体験で出くわした障害とは違い、**少数派にはどれだけ努力しても乗り越えることが出来なかったり、多数派の人の何十倍も何百倍も労力をかけなければならない障害も世の中にはあります。**

体験活動中に1組のある生徒が言った一言が先生にはとても印象に残りました。

すのこを2枚重ねたことによって、車椅子ではなかなか通りづらいという障害の横で、先生が軽々しくすのこをまたいで通過した瞬間です。

## 「ずるい！」

思わず出た一言なのでしょう。でももし自分が車いすに乗っていない状況なら、ただ横を歩いていた人を「ずるい」と思うことがあったでしょうか？その生徒は「マイリティ」という立場からものを見たからこそ、ただ歩く人のことを「ずるい」と言ったのだと思います。すのこ程度の障害なら、もし道で出くわしても何も気にせず歩いていけることでしょう。でも、それこそがマジョリティ特権があるからこそだということ。今回車いすに乗ったり、視覚を制限することによって、普段は気がつけない発見はありましたか？

今回は発見がなかったとしても、一度体験したことによって得た視点や経験を、木曜日のフィールドワークに活かして下さい。

2中から公園までの道のりや公園を調査することによって、**なかなか気がつけない特権性に気がついたり、マイリティの方が困るようなことはないか**を調査したりすることで、「**だれもが自分らしい生活ができ、幸せに暮らすことについて**」自分なりの考えを持ってほしいと思います。

